

昭和大学（旗の台キャンパス）

学生相談室だより No.117(2024年度8～9月)号



患者側の視点

年々、夏の暑さが増している気がします。今年の夏も酷暑になりそうですね。皆さん、健康を保って過ごせているでしょうか。皆さんは、医療人を目指して座学と実習で知識や経験を日々積んでいると思いますが、私は少し前に「患者として」医療を受ける経験がありました。

自分にとって初めて経験する怪我で、整形外科のお世話になり、レントゲンやMRIの結果を説明してもらったのですが、お忙しい先生で慌てていたご様子。そんな中、過不足なく正しく説明してくださったのだらうと思いましたし、誠実さが伝わってくる先生でした。なのですが、素人には初耳の専門用語がいくつか登場し、自分の怪我の状況が大雑把にしか分かりませんでした。私も怪我のショックで先生に質問する心の余裕が無い状況でした。少し落ち着いた後、曖昧な部分をネット検索で補おうとしていた私でしたが、幸いにもベテランの先生が分かりやすく解説して下さる機会に恵まれ、怪我の状態が分かり、安心して治療に向き合え、今に至ります(笑)。

自分にとって初めて経験する怪我で、整形外科のお世話になり、レントゲンやMRIの結果を説明してもらったのですが、お忙しい先生で慌てていたご様子。そんな中、過不足なく正しく説明してくださったのだらうと思いましたし、誠実さが伝わってくる先生でした。なのですが、素人には初耳の専門用語がいくつか登場し、自分の怪我の状況が大雑把にしか分かりませんでした。私も怪我のショックで先生に質問する心の余裕が無い状況でした。少し落ち着いた後、曖昧な部分をネット検索で補おうとしていた私でしたが、幸いにもベテランの先生が分かりやすく解説して下さる機会に恵まれ、怪我の状態が分かり、安心して治療に向き合え、今に至ります(笑)。

先生方にとっては毎日目にする症状で、当たり前すぎて専門用語である事すら気がつかないくらい日常語なのだと思います。でも患者にとっては自分の事なのに先が見えない不安でいっぱいです。比喻も交えて分かりやすく説明してもらえると、安心感が大きく変わります。自分の状態が分かると、治療に向けて自分が何を頑張れば良いのかも見えてきます。専門用語は、身体の状態を正確に伝えるためには大切な用語です。より正確に症状を知りたい患者にとっては専門用語で説明してもらえる方が嬉しいかもしれません。ただ、不安が大きい患者（今回わりと大きい怪我だったので、当初はかなり

発行日：2024年8月1日

発行者：昭和大学学生課 TEL 03-3784-8024

学生相談室 TEL 03-3784-8285



不安になっていました、笑) にとっては『安心に繋がる説明』である方が大切ではないか？と思う経験でした。大袈裟に言えば「理解できて納得できる説明は、正確であること以上に大切なのでは？」と感じたのです。今は、治療する上での僅かなリスクも患者に説明する義務がありますし、患者としても「知らなかった！」とはなりたくないのですが、最悪の場合や万が一のリスクなど「知った事で不安を若干煽られる」場合もあり、「人に伝える」って本当に難しい事だと感じます。

患者さんの心境や性格によって、正解は1つではないでしょうけれど、最後は『その患者さんの立場に立って』その方にとって意味がある・役に立つ説明を心がけてくれる、そんな医療人に皆さんがなってくれたら、本当に嬉しいです。
(小林)

(本学ホームページの学生部コーナーより、予約状況を見ることもできます)

8月の予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月の予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					